

「Workspace Gate」

～ Workspace ONE(AirWatch)連携 Cloud ホワイトペーパー～

1. 「Workspace Gate」とは…

「Workspace ONE(AirWatch)」と社内サーバーやクラウドとの連携に必要なゲートウェイサーバーを、Azure/AWS などのクラウド上に短期間に構築し、障害対応やソフトウェア、OS のアップデートなどの運用までをワンストップで提供するクラウドサービスです。

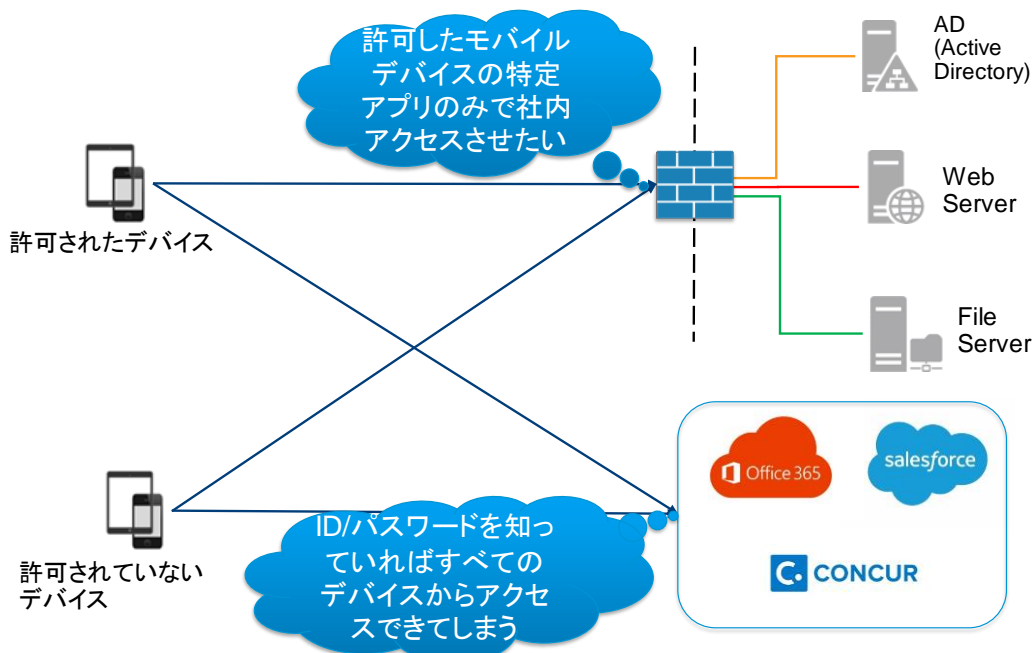
メリット

- ユーザーのメリット…いつでもどこでも、社内データやクラウドサービスを一度のログイン (SSO) でセキュアに利用できる
- 管理者のメリット…社内外のサービス・データのアクセスに必要なゲートウェイサーバーを、クラウド上に短期間で構築、安価に運用できる

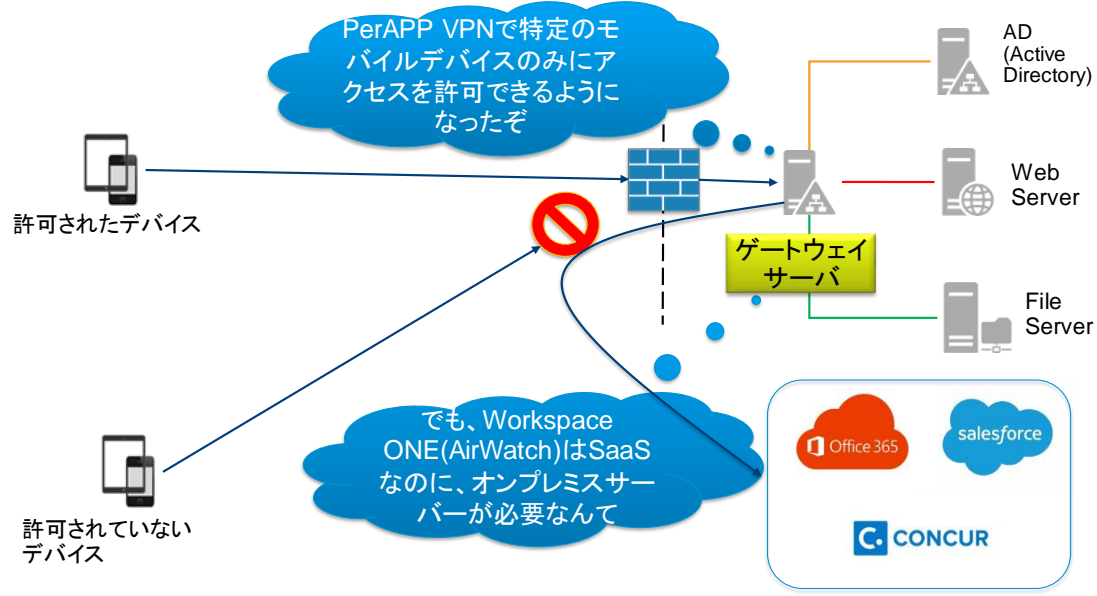
2. なぜ「Workspace Gate」か？

働き方改革を進めるうえで、いつでもどこでも仕事ができる環境を提供することが大きなカギとなっています。スマートフォンやタブレット、ノート PC など在宅やモバイルワーク環境で業務を行うためのツールは整っていますが、社内サーバーのデータやクラウドに散在するサービスやデータを活用するためには、モバイルデバイスをユーザーに提供するだけでは不十分です。

「Workspace ONE(AirWatch)」を導入することにより、ユーザーに配布したモバイルデバイスの設定やアプリケーション配布、リモートワイプなどの管理運用を行うことは可能ですが、特定モバイルデバイスで特定アプリケーションのみをクラウドや社内サーバーへアクセスさせたいなど、モバイル環境においても社内と同等の業務環境を用意するためには、VMware 社が提供するゲートウェイサーバーの導入が必要となります。

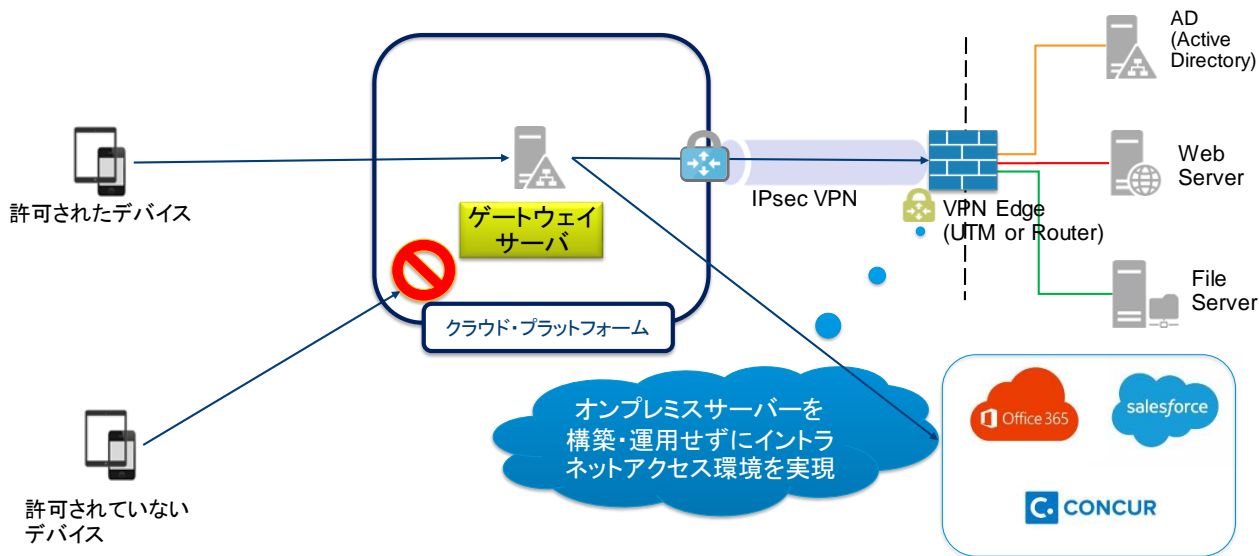


「Workspace ONE(AirWatch)」では、社内の AD サーバーと連携させる「Enterprise System Connector(ESC)」、アプリケーション単位で VPN 接続しセキュアなイントラネットリソースへのアクセスを可能にする「VMware Tunnel」、SharePoint やファイルサーバ上に存在するコンテンツへのアクセスを実現する「Content Gateway」などの機能を提供します。これらゲートウェイサーバーのモジュールはソフトウェアとして提供され、システム管理者はそれをオンプレミス環境にインストールすることにより、ユーザーに社内外へのセキュアなアクセス手段を提供することが可能になります。



ベンダーからゲートウェイサーバーのモジュールは提供されていても、システム管理者はオンプレミス環境にサーバーを構築し、モジュールをインストールし適切な設定を行わなくてはなりません。一旦設定が完了し運用が始まっても、OS のセキュリティパッチの適用や、ゲートウェイサーバーモジュールなどの定期的なソフトウェアアップデート、ひとたび障害が発生すればその障害復旧作業もシステム管理者の負担としてのしかかってきます。

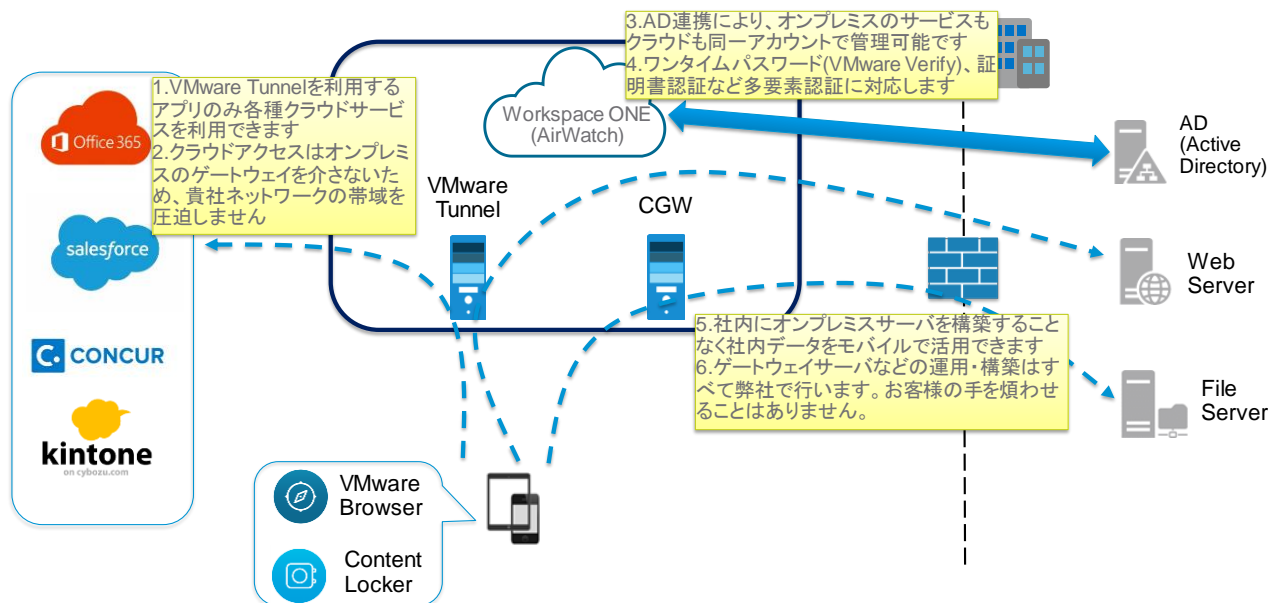
「Workspace ONE(AirWatch)」と同様、ゲートウェイサーバーもクラウドで構築・運用できないか？
そんなシステム管理者の悩みにこたえるサービス、それが「Workspace Gate」です。



3. 「Workspace Gate」の仕組み

「Workspace Gate」では、「Content Gateway(CGW)」、「VMware Tunnel」など、「Workspace ONE(AirWatch)」向け各種ゲートウェイサーバーを Azure、AWS などのパブリッククラウド上に構築します。ユーザーのモバイルデバイスから社内イントラネットやクラウドサービスへのアクセスを、ゲートウェイサーバー経由のアクセスのみを許可することにより、管理者によって許可されたデバイス上で指定されたアプリケーションからのみ接続することが可能です。許可されていないデバイスが社内イントラネットなどにアクセスを試みた場合、たとえ正規のアカウントを保有するユーザーからの要求であってもアクセスをブロックします。

各種ゲートウェイサーバーは、お客様ごとに占有環境として構築され、クラウドとオンプレミスのシステム間の接続も VPN で行うことにより、機密度の高い認証情報やコンテンツも高速かつセキュアに通信いたします。お客様の運用規模に合わせてスペックを決定し、ロードバランシングや冗長構成などにも対応することが可能です。管理者様はオンプレミス環境でのサーバー構築の手間から解放され、短期間で「Workspace ONE(AirWatch)」と社内外の連携機能をユーザーに提供できます。



「Workspace Gate」はクラウドサービスとしてご提供いたしますので、定期的に発生する OS のセキュリティパッチ適用や、「Workspace ONE(AirWatch)」のアップデートのタイミングで必要なゲートウェイサーバーモジュールのアップデートなども管理者様の手を煩わすことなく実現することが可能です。

4. 「Workspace Gate」ご提供メニュー

「Workspace Gate」では、PoC 環境の提供から本番環境の構築、運用までのメニューを提供しております。また、豊富な運用オプションにより、管理者様のご要望に応じた多彩なオプションメニューもご用意しております。提供内容の詳細や提供条件につきましては、弊社代理店または弊社営業担当までお問い合わせください。

サービス名	サービスオプション名	概要
Workspace Gate 構築サービス	For Enterprise System Connector(ESC) / Secure Email Gateway(SEG) / Content Gateway(CGW) / VMware Tunnel (PerApp/Proxy)	お客様システムとの連携に必要なゲートウェイサーバーをクラウドで提供いたします
	Relay Server	各種ゲートウェイサーバーで利用するリレーサーバーをクラウドで提供します。
	クラウドサービス連携 (SSO)	Identity Managerの設定を行い、SAMLでサードベンダーのSaaSとのSSOを実現します
	PoC Fast for Azure	機能検証に必要なゲートウェイサーバのPoC環境をAzure上で提供いたします。 ※クラウド環境構築、Azureのインスタンス利用費用を含む
Workspace Gate 運用サービス	初期費用	運用サービス開始時に1環境につき1回のみ必要 ※ 弊社にて構築した範囲での運用を前提としています。お客様にて構築された環境の場合、構成に応じて引継ぎや資料作成にかかるお見積りが必要です。
	Basic	障害及び性能監視を行い、緊急時には障害時復旧対応を行います。運用に必要な緊急パッチ適用、アップデートプログラムインストールなどの自動作業を含みます
	手動パッチ適用オプション	Basic契約に含まれるパッチ適用を自動作業から手動作業に変更するオプションです。 ※障害発生時には、パッチ適用前のバックアップをリストアいたします。 ※平日日中及び夜間のお客様の指定する任意の時間帯で実施いたします。

5. 「Workspace Gate」で「働き方改革」を一步前へ！

「Workspace ONE(AirWatch)」に「Workspace Gate」を組み合わせることにより、モバイルデバイスからの社内リソースやサードベンダーSaaSとの連携を加速することができます。従来オンプレミスでの環境構築が必須であったゲートウェイサーバーをパブリッククラウド上に展開することにより、短期間で構築し、手間をかけずに運用することが可能になります。エンドユーザーのモバイルデバイス活用が一気に推進されることは間違いありません。「Workspace Gate」で「働き方改革」を一步前へ進めましょう。構築と運用のフルアウトソーシングで、弊社がそのお手伝いをいたします。

お問い合わせ



〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-1-8 NMF 五反田駅前ビル 5 階

TEL : 03-5434-2331 FAX : 03-5434-2332

E-mail : airwatch@datacontrol.co.jp